

学力向上に向けた 学校の取組

学校教育課通信

平成28年3月24日(木) 第123号
編集・発行: 県南教育事務所 佐藤 晃

計画訪問、要請訪問等において、児童生徒が楽しく学び、学力向上を目指す授業や様々な取組に触れることができました。各学校の懸命な取組は、児童生徒が、考えることを楽しむ、できることを実感できる学習に結び付いています。

各学校で行われている授業力向上や学力向上に向けた取組を紹介いたします。
これから各学校での取組の参考にしていただければと思います。



児童生徒の実態に応じた工夫した取組を行っています。

1 まずは、生活・学習の基盤づくりから

「話の聞き方が上手」「メモを取るのが上手」「はっきり返事ができる」「給食の時の牛乳パックの開き方がとても丁寧にできる」等、**基本的な学習習慣や生活習慣がきちんと身に付いている**ので、授業においても、教師が話したことが子どもたちの中にスープと入っていきます。



<小学校>



<中学校>

小学校の指導がすばらしく、**落ち着いて話を聞くこと、やるべきことをしっかりと行うことができる**ことが**すべての活動の基本**になっています。また、男女の仲がよく、教え合いや共同作業をよい雰囲気の中で行うことができるので、中学校でも男女ペアの座席にしています。

中学校では、それに加えて、1年で中学校での学びの姿勢を身に付けさせ、2・3年生で継続指導することを毎年継続しています。



<中学校>

中学校入学後、まず、落ち着いて学習を進めるために、「**返事**」「**あいさつ**」「**指名されたら起立する**」ことを**徹底**しました。その結果、楽しく授業を進めることができるようになりました。指導の「**徹底と継続**」がキーポイントです。



<中学校>

Q-Uテストを年2回実施して、集団の高まりを目指しています。
Q-Uテストの結果を生かし、**自己肯定感が高くなるような言葉かけ**を多くするようにしています。



<中学校>

一度解いてできなかった問題は、解説をしたり、やり直しをして再提出をしたりしています。**やり直すこと、繰り返すこと**を**重視**しています。

生活・学習の基盤がしっかりできていることが、学力向上の土台になっています。

小学校高学年になって身に付けさせるのではなく、小学校に入学したその日からの継続指導をすること、中学校では小学校で身に付けた習慣を引き継ぎ成長させること、つまり、小学校低学年から中学校卒業まで連携・継続して取り組んでいくことが大切であることが分かります。

2 授業の充実（算数・数学科を通して）

（1）算数的な活動を重視した授業

具体物を用いて、目で見たり、手で触れたり、実際に計測したりなどの活動を通して、量感を育成しています。それをもとに、問題を解き、実感を伴った知識を身に付けさせるようにしています。



＜小学校＞

今回の県学力調査においても、小学校の算数で「教科書の表紙のおよその面積を見積もる問題」や「直方体の1つの辺に垂直な辺を問う問題」が出題されましたが、いずれも目標値を大きく下回ってしまいました。授業の中で、長さ、かさ、重さ、広さ等の**量感を養っておくこと**、**具体物を使って操作活動すること**により、授業で学んだことを生活の中で活用したり、問題を解決するために活用したりできるようにすることが大切です。

（2）習得と活用のバランスを意識した授業



＜小学校＞

まとめや習熟の時間が短くなってしまうことが多いので、下の図のように**適用の時間を多くして、活用する力を育てる授業スタイル**を取り入れています。

ある程度理解できたら、適用問題等に取り組ませ、まとめで一般化した方法を意識して解くようにします。これによって、実際の問題場面において活用する力も向上しています。

これは、年間を通して毎時間行うのではなく、様々な授業スタイルの1つとして取り組んでいます。

授業展開例

課題とめあて 10分	課題追求・課題解決・まとめ 25分	適用問題 10分
課題とめあて 5分	課題追求・課題解決・まとめ 20分	適用問題 20分 まとめで一般化した方法を意識して解かせる

普段の授業の中で、終末に慌ただしくまとめ、「適用問題は宿題で」という授業になってしまった経験は誰にでもあるのではないかでしょうか。そんな悩みを解決し、身に付けたことを活用する力を育てることを目指した取組です。単元構成全体を見通すことで、このような授業スタイルを実施することも可能になってくると思われます。



(3) 学び合いを重視した授業

学び合いに重点をおいて授業に取り組んできた結果、記述問題で何も書けない児童が減ってきています。また、考えを共有するためのツールとして、小黒板や書画カメラを活用するようにしています。書画カメラは、児童のノートや操作活動を視覚を通して共有することができ、時間短縮にも有効です。



<小学校>



<小学校>

授業中にわからないことを「わからない」と言える雰囲気ができてきました。それによって、自分の意見を話したり、質問したりするようになり、学び合いに深まりが見られるようになりました。



<小学校>

わからない児童がいると、まわりの児童がわかるまで説明しようとする習慣が身に付いています。どちらの児童にとっても、有効な活動です。

学び合いを通して、自分の考えを伝える、友達の考えに耳を傾けることで、自分の考えが再構築され、考えを深めることができます。そして、自分の考えに自信を持つようになります。また、わからないことを「わからない」と言えることは、わかりたい、知りたいという知的好奇心が高まっていることにはかなりません。これまで、子どもたちが学びたいと思う授業を行ってきた成果だと思います。このような子どもたちの意識の向上は、学力向上に非常に有効に働くと思われます。

学び合いでは、教師の役割を意識して臨むことが大切です。「子どもたちから多様な考えが出てよかったです。」「どの子も、一生懸命話合いに参加していた。」など見た目の状態での判断だけでは不十分です。**教師は何を話し合わせたいのか、学び合いによって、子どもたちの考えをどのように深めさせていきたいのか、学び合いの終着点を子どもの言葉で考えてコーディネートすることが必要**です。そして、そこにたどり着くために、**子どものひとことひとことに耳を傾け、子どもの言葉を拾い上げていくことが大切**です。

(4) ノートづくり・ノート活用

<ノートコンテスト>

ノートづくりに重点をおき、ノートコンテストを行って表彰をしています。手本となるノートは、教師のコメントを入れて、昇降口や廊下に掲示し、他の生徒の参考になるようにしています。

生徒もノートづくりを意識して学習するようになりますが、教師自身もノートづくりを意識した板書をするようになりました。



<中学校>



<小学校>

<ノートでつくる算数辞書>

算数のノートを1年間分のりづけして1冊にまとめ、インデックスをはることで、既習事項を振り返るための辞書にしています。

自分の学習の積み重ねが目に見える形になり、意欲の向上に結びついています。

3 新年度に向けた取組

新年度を新たな気持ちで迎え、スムーズに学校生活をスタートを切らせたいものです。

この1年間で積み上げてきた学ぶ力が途切れないように、春休み、そして、4月の取組に多くの工夫が見られました。

中学2年から3年に進級するときには、**4月の全国学力・学習状況調査の過去問題を課題に**しています。

中学1年から2年に進級するときは、**定着確認シート、フォローアップシートなどを課題に**しています。

昨年度やってみて、効果的な取組でした。



<中学校>

小学校6年の春休みの課題を（市販の問題集）を中学校で注文し、**新入生オリエンテーションのときに、配付しています。入学後に提出し、確認テストをしています。**確認テストは、中学3年生の全国学力学習状況調査と同じ日に実施しています。

<中学校>

県南教育事務所から届いた「**県学力調査からみえた弱点を補充するための問題**」を町の全小学校の共通の課題としました。新年度、統合した小学校に提出する予定です。



<小学校>

「**県学力調査からみえた弱点を補充するための問題**」を活用ガイドにあるように、新年度の全国学力・学習状況調査の前にご活用いただけますと幸いです。弱点補強に役立つと思います。

このほか、「**全国学力・学習状況調査問題に関する資料**」もご活用ください。

電子データがほしい場合は、遠慮なく県南教育事務所にご連絡ください。メールにてお届けいたします。

<県南教育事務所>

県学力調査からみえた弱点を克服するための補充問題

小学校算数

<問題編>

県南教育事務所

全国学力・学習状況調査問題に関する資料

小学校編

※ この資料は、平成25年度～平成27年度までの全国学力・学習状況調査の問題と教科書単元の関連を示した資料です。

※ 全国学力・学習状況調査の解説、報告書に掲載されている学習指導要領の内容に関する単元を基本としていますが、既習内容がすべて終わった時点での単元に記載しています。

※ 小学校2年生については、漢字、語彙等の理解が困難であることが予想されるため、上学年の関連する単元に記載しました。

※ 小学校6年生については、中学校の問題で出題されている問題を記載しました。

例えば

平成27年度 A問題 1(1)

89-078のおよその答えとしてふさわしいものを下の1~4までのなかから1つ選んで、その番号を書きましょう。

小数のしきみとたし算、ひき算 4年10月
かい数を使った計算 4年 9月

4年10月の小数のしきみとたし算、ひき算に記載

4 家庭学習の工夫

これまで、家庭学習の量については指導してきましたが、質の指導は不十分でした。効果的な学習法を身に付けさせることで、質の向上を目指しています。

毎日、5校時の前に「家庭学習確認タイム」を10分間設定しています。その時間は、「今日、帰宅したらやること」を学校で作成したオリジナルのノートに具体的に記入し、**帰宅してから目標を持って取り組める**ようにしています。

記入しない日がないように、帰りの会の中ではなく、あえて5校時の前に設定しています。



<小・中学校>



<小・中学校>

定着確認シート、フォローアップシートなどを週末課題として行っています。

金曜日に出題、月曜日に提出、水曜日に確認テスト、その日の放課後に補充学習というサイクルで、**継続**しています。

補充まで行うこのサイクルで、やりっ放しにしないことはもちろん、個に応じた指導が可能になっています。

5 個人差に対応した指導の工夫

できないところは、できるようになるまで、学校で指導するようにしています。また、**サポートティーチャーによる放課後の学習指導**は、基礎固めに有効でした。



<小学校>



<中学校>

毎週1回中学1年生に数学を中心とした学習会を実施しました。また、夏休み、冬休みにも学習会を実施しました。

このような取組によって、**生徒の学力の二極化を解消**するようにしています。



<中学校>

2年生に**特設勉強部を設置**し、希望者を募ったところ、数学が好きな生徒が多く集まり、活用問題に意欲的にチャレンジしていました。**数学好きの生徒が発展的な学習に取り組むよい機会**となりました。



<中学校>

授業では、**習熟度に合わせた様々な問題プリントを準備**しています。

定着確認シート、フォローアップシート、県学力調査からみえた弱点を補充するための問題等を用意し、**生徒自身が問題を選択して取り組める**ようにしています。

6 組織的な取組の実践



<小学校>

モジュール学習を毎朝15分間設定しています。放課後に設定すると行事等によって、実施できない日も出てきてしまうので、朝の時間帯に行っています。
内容は、定着確認シートの取り出し学習、聴写、音読、暗唱、漢字の前倒し学習、百ます計算、県名暗記などバラエティーに富んでいます。
この短時間集中型学習により、基礎学力と集中力を育成しています。



<小学校>

学年体制を超えて習熟度別学習を行っています。担任はもちろん、担任外の職員も一緒に、少人数の習熟度別学習を行い、基礎的・基本的な内容の徹底を図っています。

また、この習熟度別学習では活用力を伸ばす学習にも力を入れています。



<中学校>

学年部会と教科部会の連携を強化しています。生徒の実態から、学年がこの教科を向上させたいという思いを学年スタッフに加えて、教科部会がバッカアップしています。
これによって、専門的な指導が可能となっています。



<小・中学校>

中学校教員が小学校に出向いて、授業を行っています。小学校の児童にとって、中学校の先生に授業をしてもらえることは、非常に新鮮だったようです。算数が好きになって、その後も自主的に算数に取り組むようになりました。



<小学校>

全国学力・学習状況調査の過去問題を年間指導計画に位置付けています。
「全国学力・学習状況調査問題に関する資料（県南教育事務所）」をもとに、出題された問題番号やつまずきやすい点を明記して、共通理解を図っています。



<中学校>

全国学力・学習状況調査の生徒の答案を担当学年に関係なく、教科部会全員で採点するようにしています。これによって、下学年の担当者も、3年生になったとき、どこでつまずくのか、つまずかないためには、1・2年で、どのような指導をしていけばよいのかを共有し、授業に生かすことができました。

全国学力・学習状況調査の結果を教科部会全員が生かす有効な手立てです。



<小・中学校>

データとしてあるものを担任が印刷して使用するには、意外と時間と手間がかかります。そこで、印刷をする係を決めて、いつでも使えるようにしています。

また、定着確認シートのデータ入力も係を決めて行っています。

8 そのほかの様々な取組の工夫

<プリントを領域別に並べ、先取り学習を可能に>

小規模校なので、全教員で放課後の補充・発展的な学習を指導しています。

その問題は、学年ごとの問題ではなく、**小学校6年間の問題を領域ごとに分け、未習の問題にもチャレンジできるようにしています。**



<小学校>

例えば、分数や小数について、低学年から高学年までの問題が一列におかれ、未習の問題にもどんどん進んでよいことになっています。



2年分数

3年分数
の表し方

5年分数
と小数



<小学校>

<NIEの取組>

本校では、NIEに取り組んでいます。5年生が毎日、新聞を読むようにしています。漢字の読み書きの向上、いろいろな分野への興味の広がりが見られるようになりました。

<掲示を工夫して、学習意欲の喚起>

数学のチャレンジ問題、理科のおもしろ実験、歴史上の人物の身長など教科書には載っていないことを廊下に掲示したり、設置したりすることで、学習への興味関心を高めています。



ビー玉は、どうしてレールから落ちないの？



<中学校>

坂本龍馬の身長は、180cmもあったそうです。当時としては、かなり大柄だったことを実感できます。一方、豊臣秀吉の身長は、150cmだそうです。



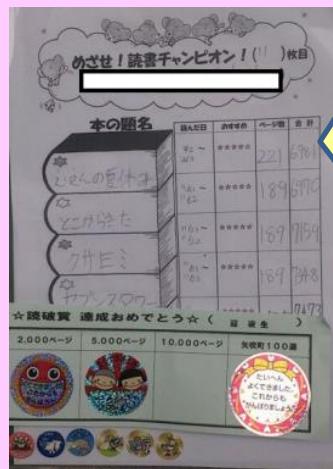
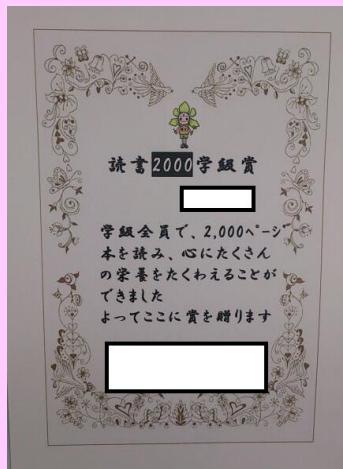
<小学校>

<読むこと、書くことを日常的な活動に>

今まで、長文問題が出題されると、すぐにあきらめてしまう生徒がたくさんいました。そこで、**学校図書館司書と連携して図書館の読書環境を充実したり、町の100選図書を選定し、読破した児童を表彰したり**しています。

読書量が増え、読むことに抵抗を持つ児童が少なくなりました。

また、4年生以上は、**毎日3行記入を書く**ようにしています。徐々に書くことに抵抗を持つ児童が少なくなってきています。



読んだ本の題名、累積ページ数をカードに記入し、シールを貼っています。個人のほか、学級表彰も行っています。



<小学校>

<書く力を付ける週末課題>

週末課題で、条件作文を継続しています。1学期は400字、2学期は600字で出題しています。抵抗なく書くことができる児童が増えてきました。



<小学校>

<理科で実験結果の考察を重視>

理科では、実験して結果をまとめた後の考察に重点をおいて指導しています。その際、**主語を意識させることで、深まりのある考察**になってきました。わかったことから考える力は、他の教科にも生かせる力です。

今回、各学校の学力向上に効果のあった取組を紹介させていただきました。ここで紹介した取組には、次の共通する**2つのキーワード**があることに気付きました。

組織的な取組

継続と徹底

※ 次号では、定着確認シートの活用事例を紹介する予定です。